

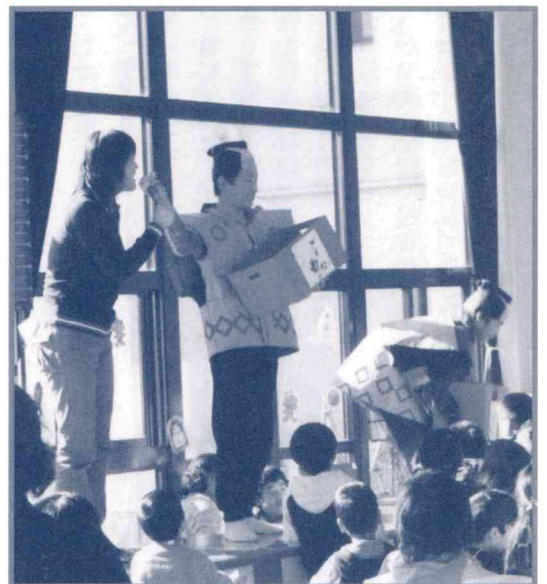
新発田青少年健全育成市民会議だより

は ば た き

21世紀も市民みんなで手をたずさえて



- ▶ ボランティアのお兄さん達の「福の神」も登場し、節分の由来の寸劇がありました。
- ▶ 一足早い楽しい豆まきとなりました。



発 行 新発田青少年健全育成市民会議
事務局 新発田市青少年健全育成センター

住 所 新発田市緑町二丁目六番三十六号
電 話 (0254) 26 - 0897

地域一体の活動をめざって

川東地区青少年健全育成協議会

会長 石山 育夫

さて、私たちの川東地区は、川東中学校、川東小学校、竹俣小学校、車野小学校とあり、世帯数は千八百戸程あります。昭和二十年代までは、川東村として一村で行政を行っていました。その時代は教育村として県より表彰されたこともあり、教育に熱心な土地柄でした。学校区は、昔からさほど変化が少なかったようです。スポーツ大会や芸能大会、敬老会などの行事も川東地区として、まとまって行ってきました。

地区に育成協があり、育成協と連携を取り合いながら、「子供の「すこやかな心」を育てるため、毎年講演会を開催して、地区の保護者に子育ての参考にして頂いています。

このふたつの組織一元化ですが、会議を重ねてようやく一元化出来る予定です。今後は育成協が中心となり「すこやかな心」や健全な教育環境の整備に努めて行きたいと考えています。

また、新年度より不審者対策として、「川東地区安全ネットワーク」を立ち上げる予定です。地区二十五集落より協力員をお願いし、保護者だけでなく地区

住民各位の協力を頂き、情報の共有や、いち早い通報防止となるように活動して行く予定です。

在所員のご参加を頂き学校間の現状や問題点などを話し合う懇談会を開催しています。

そして、「すこやかな子供を育てる会」は、当

工夫をまとめる

熱心な学習会



熱心な学習会



青少年健全育成講演会 (二月二十二日)

「共に創る、親の希望と子の希望」

新潟家庭裁判所新発田支部

主任家庭裁判所 調査官

明 珍 美樹生

要旨 抜すい

演題の「希望」に思う

非行少年を相手にし、その様子を見てみると、「希望」を失った子が犯罪や非行に走ると感じております。

人間にとつて真面目に生きるとか、規則やルールを守るとい

うことは窮屈なこととか、厄介なことだと思えます。しかし、希望とか将来への望みとかがあれば、その窮屈さや厄介さを我慢できます。希望がなくなつた

とき、なぜやりの気分支配され、ルールなどを面倒くさいものと思うのではないのでしょうか。希望というのは我々にとつ

て、とても重要な「道しるべ」ではないかと思えます。

次に、「親の希望」について考えてみたいと思えます。

(※長野県の「県立子ども病院」院内学級の二人の少女の詩と、病気の子をもつ母親の詩を朗読紹介)

この詩を読みますと、親は自分と違う状況にある人をうらやましく思いやすいが、大事なこ

とは、今、この子と過ごすことができる、この瞬間瞬間をかみしめるということであります。親の希望とは、子どもがそこにいること、そのものであると言えないでしょうか。最近の私たちは、このことを忘れてしまつていないでしょうか。

親の態度と子どもの非行

最近、親の幼稚さが目立ちます。

子育ての期間は、母親も父親も自分のやりたいことができないわけですが、このときの我慢で、親自身が成長するのです。

この時期に苦しさから逃げ、子どもをほったらかしにしているようです。

特に父親は、子育てにもかかわらず遊び、子育てのなかで我慢を覚えた母親との成熟度の落差が、夫婦の不和をうんでいる姿も見られます。

かつて、全国で起きた少年の重大事件を、家庭裁判所と専門家が分析した資料を参考として紹介いたします。

(※このことについて、それぞれのタイプ別にくわしく例示をいただきましたが、紙面の都合で省略させていただきます)

①幼児期から問題行動を頻発していたタイプ

このタイプの子どもの親にみられる特徴として、

- ・親に余裕がなく、子どもの気持ちを考えずに体罰や、大声で怒る。

- ・「しつけ」と虐待をはきちがえて、暴力もかまわないと考える親がいます。

②表面上は問題を感じさせることがなかったタイプ

(表情が乏しく、他者といきいきした関係が持てない)

このタイプの子どもの親に見られる特徴として、

- ・親の子どもへの期待が強すぎる。

- ・両親間や親子のコミュニケーションが乏しく、お互い、表面的な関わり方で終わってしまふようです。

③思春期になって挫折を体験したタイプ

地域の力を

さらなる飛躍をするために

佐々木地区青少年健全育成協議会

会長 渡辺 和昭

我が地区は、青少年健全育成会議とさわやか佐々木っ子育成

会の二本だてで活動してまいり

ましたが、役員及び行事内容もほぼ同じなので数年前より関係者に、事ある度なんとか一本化にできないでしょうかと、訴えてきました。この度の一元化モデル指定は、佐々木にとってはチャンスです。役員の中にも二つの育成会が活動している事が認識できていない人がいます。一般の保護者はなおさらです。そういう事であれば、みなさんが分からない内に一本化して後で不具合が出てきたら修正しましょうとの事です。この事業で一番むずかしい事は予算の配分です。市民の会費からの助成金と市からの補助金は混合して使えないからです。そこで当地区の育成会議は、市民会費の助成金で予算組みをして、さわやか佐々木っ子育成会の組織を解体して、育成会議の中で専門部会を新たに設置して、いまままでの市の委託事業を委託金の予算で事業計画を組み進めようと

思います。この計画がスムーズに行けば、役員の数もスリムになり、また似たような会議の数も減り、役員も時間のロスがなくなり喜ばしい事と思います。今年度の、組織一元化育成モデル事業助成金を利用して頂き、佐々木地区初めての「冬祭り」を計画しました。かまくら、雪造りの勉強のため十一月十、十一日の日程で福島県南会津郡下郷町の下郷町役場へ役員四名が

修の成果もあり、また十九年ぶりの豪雪で、二月五日佐々木小学校グラウンドにて保護者と子どもたち及び地域の皆様と、かまくらや雪造りで楽しい一日を過ごす事が出来ました。当日温かい肉汁、焼もち、あま酒で心と体もほかほかになりました。

かまくらでボカボカ



このタイプの親に見られる特徴は、

- ・子どもを過大視して思い入れが強すぎ、一方子どもは、親の前でありのままを出せずに苦しむ。

- ・やがて、子どもが何かで挫折したときに、自分のこれまでの夢が崩れたように感じて、今までとは逆に子どもを無視したりすることから、親子の亀裂が決定的になることがあります。

明珍先生の講演を聞いて

市民会議 常任理事 宮下 俊夫

先生は「人は無いもののねだりをするのが不幸の始まり」と話の切り出しをされました。

無いものは「得る努力をする」か「我慢をして持たない」かなければなりません。今の青少年は努力も我慢もできないのです。先生の言う「不幸の始まり」がその点にあります。

徳川家康は三代將軍を幼児のとき親から離し、乳母に我慢をする子に育てさせ、そして徳川三百年の礎を創りました。

また先生は「大人も子どもと共に育たなければならぬ」とも言われました。大事なことです。そのとき気長に言葉がけをして、青少年と向き合う必要があると言われました。いいお話ありがとうございました。

親はどうあるべきか

最後に、親のあり方、大人のあり方について、大事と思うことをまとめてみましょう。

①子どもと、言葉と体でふれあい、かまうこと。

気にかけてやり、声をかけてふれあい、かまうということが大切です。

愛情とは、子どものことをいつも気に掛けていることだと思います。

②三者関係（父・母・子ども）を大事にすること。

母子の二者関係は子どもにとって居心地よいが、そこに止まっていれば、「生きる世界」が広がります。

父親が間に割って入り、社会の規範や厳しさをもち、母親以外の存在があることを知らせる事です。

③幻滅、あきらめを与える。

子どもの要求に応えるばかりでなく、子育てで大事なことは、いかに子どもにあきらめさせるかであり、いかに、自他の違いを受け入れさせるかであります。

④子どもにとっての、手本になること。

「子どもを変える」ことは、自分が親として手本となるように変わることが大切です。

⑤子どもを一人の「人」として尊重すること。

その子どもを尊重していることが、具体的に伝わらなければなりません。

その、きっかけになることが「あいさつ」であります。

叱るかわりに、どんどんあいさつをしていくことが大事ではないでしょうか。

おわりに

こうすれば、子どもは立ち直るとか、こうすれば、子どもはよくなるというマニュアルなんてありません。

自分が育つ上で何が必要であったか、褒められたこと、叱られたこと、様々な遊びなどを、自分の子どもに体験させてやる事が、大事なことです。

時代の姿に感じ、思いを深める若者たち

- このたび、中・高校生に、社会や大人たちの姿、ボランティアへの思い、将来への考えなどを述べてもらいました。
- 鋭い視線でとらえ、見とおしをもって思いを深めている若者たちです。

将来を描いて

第一中学校 志村 紀幸

僕が将来つきたい仕事は、英語教師です。中学校か高校かはまだ決まっていません。

その理由としては、まず英語が好きというのが第一です。中学校に入学した当初は、別に好きでもなかったのですが、二年生くらいから好きになり、だんだん熱中していききました。好きになると上達も速いようで、英語を耳にしても、自然な感じでした。でも、まだまだ未熟なので、もっと勉強したいです。

次に、先生に影響されたことです。中学校一・二年生の担任がすばらしい先生で、こんな先生になりたいと思ったからです。何の先生になろうかと思ひ、自分の得意とする英語にしようと思ひ、今に至るわけです。

今、僕の日常には、英語に接する機会がけっこうあります。英語の本を読んだり、人と英会話をしたり、テレビ・ラジオで聞いたり様々です。

皆が楽しんで、英語を習い、活用できたら、僕は大変幸せです。

将来の夢

豊浦中学校 伊藤 彩乃

私の夢は文芸翻訳家になることです。文芸翻訳とは主に書籍の翻訳をする仕事です。私は読みたい本が邦訳されていず読めなかったことがきっかけで翻訳業に興味を持ち始め、外国語の文章を日本語で表現することによって段々と魅力を感じるようになっていきました。中三になってからは総合的な学習の時間を使って文芸翻訳家について詳しく調べ、さらに翻訳に必要な知識は大学でどの程度学べるかについても調べました。これにより、それまでは漠然としたものでしかなかった“夢”がだいぶ現実味を帯びてきたように思えます。またこれから私は、夢の実現のために今できることを考え、どんどん実行していきたいと思っています。本をたくさん読む、英語・国語の勉強に特に力を入れるなど、心掛けるべきことは色々ありますが、常に自分の目標を見据えて地道に努力していきたいです。

大人のマナーに思う

本丸中学校 中村 紗悠

私は、最近大人の人のマナーについて不満があります。例えば電車内のことです。

一番よく見るのが、座席に荷物を置く大人です。電車内がすいていればともかく、満員電車のときに荷物を座席に置くのは非常識だと思います。しかも、満員電車のように、座席を確保するのが難しい時に限ってこのような状況をよく目にします。

もう一つよく見るのが、席をゆずらない大人です。これは若者も同じなのですが、なにより社会の指導者である大人がちゃんとやるべきだと思います。

私は以前、ケガをして松葉杖をついている人を車内で見たことがあります。その時、誰一人として席をゆずりませんでした。老人が立っていても無視です。

「近頃の若者はマナーが悪い。」という大人がいますが、近頃の大人のマナーが悪いから若者に反映してしまったんだと思います。「社会の指導者」ということを自覚して行動してほしいです。

ゆとり教育での苦勞

高校生 A・O

ここ数年間、私が一番社会に對して言いたいことは「ゆとり教育」のことについてです。このゆとり教育は、私が中学二年になった春から、週休二日制という形で私達の生活に影響を及ぼすようになりました。最初のころは私も友達と一緒に休日が増えることを喜んでいました。しかし、休みが増えてゆとりが生まれるどころか、むしろ毎日の学校生活がとてつもないハードになりました。先生方は「時間が無い」が口ぐせになり、私達は一週間が終わるころにはくたばり果てるようになりました。



朝、電車通学生の一日が始まる（駅前）

ゆとり教育は他にも学力低下などを引き起こしたので、今では廃止も検討されています。それには私も賛成です。しかし、このゆとり教育の下で学生であつた人達の苦勞は氣の毒に思います。

人にとつて、中学二年生や高校一年生という時間は、一生に一度しかないのですから、学校教育について定める側には、もっと慎重になつてほしいと私は声を大にして言いたい。

子どもを伸ばす「手伝い」

三田 フサ子
(富塚町)

最近、中国出身の女性講師による料理講習会に参加した時の事です。先生の小学校の息子さんが助手として手伝ったのですが、その活動ぶりのすばらしさに驚かされました。中国ではこの家庭でも子どもが小さい時から家事を積極的に手伝わせているということを後で聞いて納得できましたが、同時に私達日本の家庭の現状に疑問を感じました。私自身も幼い頃は、兄弟姉妹それぞれが年齢に応じて台所の手伝いや庭や玄関の掃除、弟妹の世話などの仕事を受け持ち取り組んでいました。親も子どもそれが当然のことと思っていました。怠けると叱られました。が、がんば

大人への疑問

私は新潟市の高校に在籍している高校生です。毎日電車で学校に通っているのですが、その通学の際にいつも気になっていることがあります。

電車と言えば利用率の高い公共機関ですが、その利用マナーが悪い大人が非常に多いのです。ラッシュ時間の満員電車の中で混雑しているところを、無理矢理人をかきわけて押し入る

っている姿を褒めてもらうことがとても嬉しかったし、姉の仕事を自分が引き継いだ時などは少し大人になったような気分になったことを覚えています。

ところで、現代つ子はどうか。ゲームや勉強に追われて手伝いどころではないのでしょうか。昔より家事が少なくなっていますが、このことを親はどうとらえているのでしょうか。親の姿勢が問われるようです。家事の手伝いを通して子どもは家族の一員としての自覚を持ち、役立っていることの喜び、やりとげようとする態度や習慣、そして、自立の心が育っていくのではないかと思います。ぜひ、家族で話し合つて、子どもができる家事を決めて「手伝い体験0」という子どもをなくしていきたいものです。



子ども達のボランティアの相談

無神経な人や、席が空いているからといってボックス席の向かいのシートに足をのせて眠る自分勝手な人などが大勢います。公共機関を利用するということは、他人と接触をするということです。その時、たとえば名前も知らない人ではあつても、相手に不愉快な思いをさせないようにする事は、社会生活における最低限のルールではないのでしょうか。高校生でもわかることなのに、自己中心的な振舞いをする大人達がいるのは何故なのでしょう。電車でそんな人を見かける度に、私は疑問と軽い嫌悪を感じずにはいられません。

ボランティアを考える

高校生 荒川 大靖

最近聞いた話だが、あるボランティアに希望して参加した人が、行く先で係の人にこう言つたことがあつたそうだ。「私達ボランティアに來ているのだから、駐車場くらい用意してくれてもいいのではないか。」

今ボランティアで必要なのは参加する側の人達が、その本質は何か、どういう姿勢で臨むのが一番望ましいのか、正しい認識を共有することだと思う。特に僕らの世代は、ボランティアがより多く必要とされる場に出会うと思う。実際の活動を通して、感じ学んでゆくのも大切と考える。

正しい認識の中で、一番大事だと思ふのが対等な立場で接することだ。介護施設でのボランティアで僕はこれを感じた。

それに加え、活動しやすい環境も必要だと思う。少年団の活動をする際、僕ら高校生が自主的な打ち合わせや行事に使える場所が不足している。中学生だけでなく積極的に利用できるこういった施設が増えれば、よりボランティア活動も活発になると思う。

人間と機械

ある時、駅の清掃員がゴミを拾っているのを見かけた。ああ、ゴミだらけだからお仕事大変だ、と思つて見ていた。すると次の瞬間驚きと同時に、呆れを感じる光景を見てしまった。その清掃員はゴミを拾つてはいるが、拾う先から道端に痰を吐いて行つてしまつたのだつた。

人としてどうあるべきか。人の活動の理屈とか、思考とかそういうものが根底にあることを少し理解してほしいと思つた。一定の仕事を達成するだけなら、プログラムされた機械のほうが正確にこなす時代になつたと思う。そんな中僕らは生きてゆかなければならない。決して「機械に使われる、操られる人間」になつてはならない。

機械には不可能な、今やつていける(やろうとしていける)仕事や行為の意味、目的を深く考え直す。その機会と手段を持つていけるのは人間だけだと思う。これを活かすことが出来ないため、仕事につくまで、ついでから続けることが苦難に感じるのだと思う。今、高校でやっている進路指導は入ることに執着しがちだが、こういった仕事の本質を学ぶ機会に活かすことで、より長い目をもつて効果的に働くと考ええる。

めあてをもって、輝く子どもたち

子どもたちは、とりまく社会からの多様な刺激を受けて、夢を描き、めあてをもって、自らを磨き励んでいます。

花壇ボランティアに参加して

西新発田高校 遠藤 健太

ぼくは、花壇のボランティアをするのは初めてで最初は何かから始めればいいのか分かりませんでした。現地に着いた後も、どうすればいいかとまどつてしまいました。でも、その時に一緒にするボランティアの人から声をかけてくれて、花壇の作業の仕方を分かりやすく、親切に教えてくれました。今回の作業はけっこう力が必要でしたし、途中雨も降りましたが、まわりの人を見るとお年寄りの人や、子どもたちががんばっていて、終

ボランティアグループ



花壇
(自衛隊前)



わった時はみんないい顔をしていたのでほくも疲れがなくなりました。どんな作業も一生懸命すれば気持ちがよくなるんだなと思いました。これから、いろんなボランティアをしたいです。

ヘルパーをめざして

(本年度ヘルパー三級講習に挑戦)

本丸中学校 高橋 航

僕がヘルパー三級課程に受講した動機は、高齢者と接することが好きで、人とかかわりを大切に、もっと深めたいと思ったからであります。

受講中、困難に思ったことはたくさんありましたが、周りの人達が親切にして下さったので、乗り切ることができました。何事にもチャレンジしてみることが大切なんだなあ、と思いました。

僕にとって、この貴重な体験はとてもためになりました。

これからも、この経験を将来に役立てるよう心がけ、また、いろいろな事にチャレンジしていきたいと思っています。

本丸中学校 阿部 大樹

僕は、去年の夏にヘルパー三級を受講しました。受講の動機は、自分も興味があったし、父に勧められたので受講しました。

受講内容は、楽しく取組むことができ、実技もあつたのでとても分かりやすかったです。

僕はまだ三級なのでこれから、一・二級を受講し、将来に役立てていければと思います。

マーチングバンド・バトントワリング全国大会出場

一月十五日 土曜日
日本武道館

東豊小学校金管バンド

東豊小学校金管バンドが、日頃の努力が認められて、全国コンテストで見事、「銀賞」の荣誉に輝きました。

おめでとうございます。



4-2

会場一杯に堂々の演技

「金管部への想い」

東豊小六年 宮崎 遙

楽器を持って動くマーチングはすごくつらいものでしたが、練習を重ねるうちに、楽しみが増してきました。

先生や友達など、多くの人たちに支えてもらって全国大会へ出場することができ、その感動と幸せは忘れられません。

私は卒業しますが、来年度も全国大会へ行つて、いい演技をしてほしいです。

“全国中学生創造ものづくり教育フェア”

文部科学大臣賞受賞

七葉中学校三年 岩川佳織さん

七葉中学校家庭科部員として、この度の“教育フェア”ソールディング部門に創作洋服を出品し、大賞を獲得しました。岩川さんは「難しい技術も、先生の指導をいただき完成しました。」と、努力をふり返っています。



受賞を喜ぶ岩川さん

おわりに

明珍調査官のお話に、「最近はおの幼稚園が目立つ」と、述べておられました。

つまり、子どもと同じレベルの稚拙さのため、子どもの心を育てたり、大人への態度を導くことができない親が多いことを問題とされていました。

たしかに、そのような親がひき起す、教育の放棄や家庭破壊の姿が見られるようです。

一方、若者の大人観には、大人のルール軽視の傲慢さ、怠慢さが映っているようです。

まさに中村紗悠さん(四ページ)がいう、「社会の指導者」であるべき大人の、モデルとしてのあり方が問われています。

地域(地区)活動の充実が期待され、また、地域の拡大を迎える中で、本紙「はばたき」への皆様のご意見を、お寄せ下さるようお願いいたします。

(文責・楨坂)

編集部

楨坂 宣弘
吉田 奈津子
伊保橋 清子

